

生物共生型護岸「潮彩の渚」 を活用した取り組みについて

1. 「潮彩の渚」とは

横浜港湾空港技術調査事務所構内の老朽化した護岸を改良する際、地震に強い港湾施設でありながら海の生物とも共存できる構造として設計し、整備を行った生物共生型護岸（人工干潟・磯場）の名称である。

2008年の造成から、2022年10月までに199種の生物について生息を確認！

近隣小学校の環境学習や一般市民及び大学生等による生物調査の場として提供することもあり、貴重な存在となっている。



2. これまでの取り組み

- 干潟生物との触れあいから海に対するの関心を持って欲しい！
- 東京湾の生物環境改善への必要性を感じて欲しい！

➡ これらに主眼を置いた環境学習や生物調査を実施！



① 地元小学生の環境学習

干潟に生息する海洋生物の観察を実施。

雨天時には、事前に採取していた生物を屋内で観察することもある。



アサリの稚貝を計測中

大学教授による座学風景

② 市民参加型の生物調査

『江戸前アサリ「わくわく」調査』と称したアサリの生育状況調査や、『横浜の海はいま？』と称した外来生物の採取観察を実施。
大学教授を講師としてお招きし、観察ポイントや生物の詳しい話について解説を頂く。



③ 釣り体験による環境学習

地元小学生の環境学習第2弾として、日本釣振興会と連携し海釣り体験を実施。

干潟周辺海域に生息する生物について理解を深める。

2008年からこれまでの約15年間で、近隣小学校・一般応募の市民・大学関係者 **約6,800人が来所！**


3. 新たな取り組みへの挑戦

社会全体にSDGsの目標達成に向けた気運が高まっている中、事務局が貢献できることは何か？

環境学習や生物調査体験を通して
切迫する環境問題とSDGs目標達成への取り組みの重要性を将来の主力世代となる小学生に伝える。

- 自身の行動や活動とSDGsとの関連性に気づいて欲しい！
- SDGs目標達成のために行動を起こすきっかけとして欲しい！

SDGs17の目標のうち

 「13.気候変動に具体的な対策を」

 「14.海の豊かさを守ろう」

を意識した環境学習を設定！

マイクロプラスチック問題への啓発

海洋プラスチックゴミがやがてマイクロプラスチックとなり、どのように海の生物に影響を及ぼすのかということや、最終的には人間にも繋がってくる問題であることを知ってもらう。

「潮彩の渚」に流れ着いた漂着ゴミを、自身の目で確認することをきっかけとして、これら問題がとても身近であり深刻なものだということを感じてもらう。



ブルーカーボンへの啓発

温室効果ガス対策となるブルーカーボンについて知識を持ってもらうとともに、アマモなどの海草を増やすことが重要であることを知ってもらう。

アマモの移植実施、発芽状況の観察や「潮彩の渚」への移植といった実体験を通し、ブルーカーボンは身近なものであるということを感じてもらう。



4. 取り組みへの工夫点

アマモ生育の流れ

5～6月頃 花枝の採取

7～9月頃 種子の選別

12月頃 ビニールポッドに移植

海水を入れた水槽に沈め1～2ヶ月後の発芽を待つ

水槽内の海水を適宜入れ替えながら管理

3月頃 海への移植

環境学習で体験

《課題点》

- アマモの生育には海水が必要なため、海に面している当事務所構内にて移植や生育管理を実施することが基本となることから、頻繁に来所することが難しい学校には、十分な実体験をさせることが出来ない場合がある。
- アマモの移植は3月頃からとなるため、学校側は行事等の関係から来所することが難しく、移植の実体験が出来ない場合がある。

《工夫点》

- 海水の代わりに、生物飼育用として市販されている人工海水を利用するという実験的な試みを取り入れることで、学校内においてアマモの移植や生育状況の継続観察を体験してもらえるようにした。
- 「潮彩の渚」へのアマモ移植作業を、WEBカメラによるライブ映像にて伝えるという試みにより、現地での体験と同様の臨場感を感じてもらえるようにした。



ビニールポッドへの植ええ



発芽を期待し水槽へ沈める



アマモ移植のライブ中継



生長したアマモの観察

5. 取り組みの結果

自主的な活動意欲

- 環境学習後の感想にはこれまで、「生物観察が楽しかった」というものが大半を占めていたが、「マイクロプラスチック問題やブルーカーボンについてもっと学びたい」という意欲的な意見や、「海の豊かさを守るためにゴミ拾い活動に参加してみたい」といった決意表明が多く見られるようになってきた。
- ブルーカーボンの説明を聞いた子供達からの「やってみたい!」という強い思いを受け、アマモの植ええから生長観察、移植までの継続的な活動に繋がることとなった。

こちらからの提案ではなく、子供達が自主的に活動意欲を持ってくれたことが、非常に嬉しいことだった。



小学校から頂いた寄せ書き

小学校独自のさらなる取り組み

近隣小学校1校は環境学習にとっても力を入れている。

- 当所での環境学習を足がかりとし更に活動を深め、今では県内の教育機関のうち13校しか登録していない「ユネスコスクール」に加盟し、世界に向けてSDGsへの取り組みを発信するまでとなっている。
- 校内では環境学習発表会を定期的実施しており、保護者や地域住民に対して、これまで学んだ成果を発信している。

発表会には事務所職員も招待され参加している。素晴らしい発表ばかりでありとても感激した。



小学校の環境学習発表会

6. 今後の展開

- これまで繋がりのない小学校に対しても活動を広げていく。
- 小学生だけではなく大人に対してもSDGsへの意識共有を深めてもらうことが大きな目標。

環境学習に参加した小学校に対し、当局関連イベント等において環境学習の成果発表の場を提供!

⇒ 子供達の真剣な発表は皆の心に響き、多くの方へSDGsへの意識共有を深めてもらえるのではないかな。

Twitterを活用し、事務所や小学校等の取り組みについて積極的に情報発信！共感者を増やしていく。

